

ベルマーク新聞 7月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表) 郵便振替口座 00100-7-56035
大阪事務所 大阪府北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社内 〒530-8211 電話 06-6231-0131 ダイヤルイン 06-6201-8031 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

ラオスに届け！私たちの絵本

八王子市立由木中学校が「絵本を届ける運動」に参加



(写真左) 出来上がった絵本を掲げる八王子市立由木中学校の生徒たちと海老名利亮先生
(同右上) 翻訳シールをハサミで切って貼っていく
(同右中) ラオスの海老名先生
(同右下) ラオスで見つけた絵本

ベルマーク財団の「教育応援隊」のひとつ「絵本を届ける運動」に、東京・八王子市立由木中学校が初参加しました。絵本に翻訳シールを貼り、アジアの子どもたちに届ける活動です。指導にあたった海老名利亮先生は、以前ラオスの図書館で日本から送られた絵本に出会って感動したことがあり、ぜひ生徒たちにこの活動を経験してもらいたいと、教育応援隊に応募したそうです。

7月6日の放課後、生徒会役員8人を含む同校1～3年の29人が教室に集まりました。海老名先生は、自分がラオスを訪ねた時の写真を見せ、「これから作る絵本はこうして現地に届きます」と説明。ラオス訪問は9年前だそうで、

写真の中の海老名先生を見て生徒たちからは「若～い」など声飛びました。

生徒たちは「おおきなかぶ」など5種類の絵本から1冊を選び、席に持ち帰って翻訳シールを切りとり、絵本に貼っていきます。こまかい作業ですが、みな和気あいあいと手を動かし、約1時間ほどで絵本はほぼ完成しました。

仕上げとして、巻末に自分の名前をラオス語で書き込みます。ひらがなとラオス語の対照表を見て書くのですが、濁音などラオス語にはない文字もあり、「どうしようかなあ」と苦労しつつ、みんな丁寧に書き込んでいました。

3年生の松尾遼くんは、「実際に手でさわって作業したら、これをラオスに届

けるんだという実感がわき、達成感があった」。また2年生の新井佑さんは、「現地で勉強したいと思う人を支えることができたのでは」と話しました。

3年生の堤美和さんは、将来の夢がボランティアで海外に学校を建てることだといいます。「今日は、その夢とつながる作業で、すっごく楽しかった。自分のやりたいことが、更に明確になりました」と話してくれました。

海老名利亮先生は、JICA（国際協力機構）の海外研修でラオスを訪ねました。開発途上国であるラオスは、公衆衛生などの知識不足で健康不安もあり、教育現場でも教えられる人材が不足していました。でも、子供たちは素朴で明るく、ニ

コニコと笑顔を向けてくれました。そんなラオスに、「自分たちが学ぶことも多いのでは」と海老名先生は考えました。単に開発を支援することが、果たしているかどうか……。葛藤する中、「でも文字を覚えることは大切で、絵本を送ることは必要な活動だ」と思い至ったそうです。

海老名先生は昨年、由木中学校に赴任し、まず学校としてベルマーク運動に参加することから始め、今春、財団の案内が来てすぐに応募したそうです。今年度の教育応援隊「絵本を届ける運動」は締め切りましたが、シャンティ国際ボランティア会（03-6457-4585）に申し込みば有料で参加することができます。

説明会に 4800 校・1 万 2 千人余が出席

2018年度のベルマーク運動説明会が終了しました。5月8日の新宿・広島・福岡からスタートして、6月22日の宮崎県延岡市がゴール。全国47都道府県95カ所を、26人の財団員らがチームを組んで、手分けして回りました。会場に来られた方は合計で1万2884人でした。これから1年間、ベルマーク運動をよろしくおねがいいたします。

各会場で、昨年度のPTAの担当だった方を中心に、ベルマーク運動の体験発表をしていただきました。運動の喜びや悩み、工夫そして提言など、いずれも示唆に満ちた内容でした。ありがとうございました。本号の2、3面に、発表者の写真を一挙掲載させていただきました。

それぞれの発表の詳細は財団HPをご覧ください。また、中国地方・九州地方の4会場の説明会を回った財団員のドキュメントを4面に掲載しています。

協賛会社のみなさまには、会場にブースを出しての試供品などの提供と同時に、ときには会場設営なども手伝っていただき、深く御礼申し上げます。受付を手伝うなどしていただいたウェブベルマーク協会のスタッフにも感謝いたします。

説明会で上映したDVD「未来を育むベルマーク」の貸し出しは通年で受け付けています。そのほか、ベルマーク運動について、何か分からないことや知りたいことがあったら、いつでも気軽に財団にご相談ください。



全国95会場の発表者の皆さん

貴重なお話ありがとうございました。

全国 95 会場の発表者の皆さん



貴重なお話ありがとうございました。



ベルマーク運動説明会、旅ドキュメント

山口→下関→北九州→大分

山口/5月22日(火)

説明会は、ベルマーク運動にご協力いただいている皆さんに直接お会いできる貴重な機会です。「どんな出会いがあるだろうか」「現場ではどんな声が挙がっているだろうか」、そんなことを考えながら移動しています。今回は、山口宇部

空港からスタート。バスに乗るため外に出ると、なんと敷地内に薔薇園がありました。約160品種、約1000株もの薔薇を背に、期待に胸をはずませて会場の



山口市民会館へ向かいました。

体験発表を引き受けて下さったのは、山口市立平川小学校の原知子さん、近藤多佳子さん、青島七重さん。背中に学校のロゴが入ったお揃いのTシャツを身に着けての登壇です。保護者の「PTA 学年部ベルマーク係」と児童の「学校ベルマーク委員会」を中心に、学校全体で意識を高め、回収率UPに成功されたそうです。ベルマーク係は、さらに5つの担当に細分化しているのが特徴です。ユ



北九州/5月24日(木)

天井が高く開放感のある小倉駅を通り抜けて、毎日西部会館へ。



この日の発表校だった北九州市立大里柳(だいらやなぎ)小学校は、その名の通り、ひな人形の「おだいら様」に由来する地名だそうです。来て下さったのは、学級ふれあい委員会の矢括留美子さん、佐藤典子さん、千葉恵美子さん。前年度PTA会長の遠藤誠一さんも応援に駆けつけました。

昨年度は活動を本格化させる前に、作業の進め方について意思統一を図りました。その結果、番号・点数ごとに分別し



て10枚ずつテープでとめる、というルールにしたそうです。カートリッジ類の回収や、校区内の自治公民館、市民センター、スーパーへの協力依頼もしています。「地味で大変と思われがちです。でも子どもたちのためになる大変やりがい

ニクなのは、ベルマーク委員会が主催するドッジボール大会。クラス単位で、ベルマーク25枚とテトラパック30枚を集めることを参加条件とし、企画から運営まで全て子どもたちで行いました。さらに保護者向けには、PTAおやじの会主催のドッジボール大会があり、1人10枚のベルマークを条件に参加者を募り、盛り上がったそうです。

終了後は、翌日の下関会場まで、在来線で約2時間の移動です。山口駅の後ろに迫る新緑の山々に見送られて出発しました。

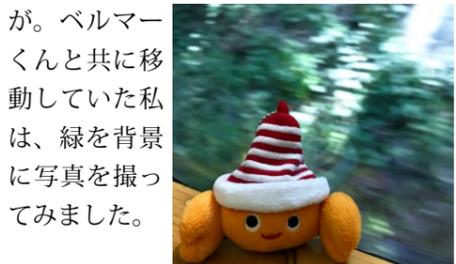


6月号に引き続き、財団職員による説明会のドキュメントをお届けします。関門海峡を挟んだ中国・九州地方3県4都市の説明会を「巡業」したレポートです。財団マスコットのベルマークくんも同行しました。各地の写真も合わせてご覧下さい。



のある活動です」と締めくくられた発表に大きな拍手が送られました。

会が終わると、大分まで特急ソニックで1時間半かけて移動。乗り込んだ小倉駅では列車の進行方向が変わるため、座席の向きを自分たちで逆にします。進行方向の右側に座ると山の緑が、左側に座ると青い海を見渡すことができます。大分到着前には地元を案内するアナウンスが。ベルマーク



下関/5月23日(水)

下関の街は、かわいい「ふぐ」たちであふれていました。「ふぐ」ではなく「ふく」です。見上げれば駅のちようちんに、視線を落とせば足元のマンホールに、ふく・ふく・ふく……。地元の方にとっては、当たり前風景かもしれませんが、初めて見た私にとっては

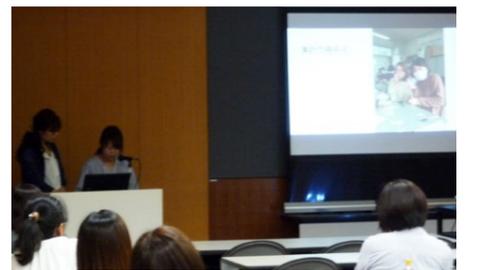


とても新鮮で可愛く、思わず写真を撮ってしまいました。

説明会当日の天気は雨でした。天気が悪いと、せっかく足を運んでくださる皆さんに申し訳ない気持ちになります。でも会場の海峡メッセ下関には予定を超える42人が来てくださいました。PTAの発表は下関市立川中小学校の田中佳容

子さん、永田加奈子さん。川中小は「日本一学びの好きな学校」を教育目標に掲げており、県内の学校に向けた授業力向上実践研修会や山口県学力向上推進フォーラムの開催実績があります。

同校は学期に一度「ベルマーク週間」(8日間)を設けているのが特徴。期間を設定することで、ただ提出するだけで



はなく、集める意識づくりが出来るそうです。回収したマークは各クラスの施設部員が持ち帰りプレ集計をします。そうすることで、PTAによる集計作業の日の負担を少しでも減らせるよう努力されています。学校も強力な味方です。発送作業や、カートリッジ類とテトラパックを随時回収してくれるのは、学校の事務室なのだそうです。

翌日の会場の最寄り駅までは在来線で10分ちょっと。海の底のトンネルを抜けると、そこはもう九州でした。



大分/5月25日(金)

この日は見事な晴天。東京と比べると西日本の陽射しはとて強く、日傘を持って行けばよかったですと悔やむほどでした。



会場のコンパルホールは定員500名。その立派な大舞台に堂々と登場したのは、大分市立明治北小学校の桑野清香さんと同校の癒し系マスコットキャラクター、コスミーと妹のモスミー。思わずモフモフしたくなる可愛さに、会場が湧きました。明治北小には「コスモスロード」があり、コスミーとモスミーはコスモスにちなんだ妖精だそうです。桑野さんは昨年度、PTA副会長をつとめていましたが、今年度は執行部の相談役として大活躍されています。

発表テーマは「保護者と学校、地域、

子供たちの『連携・協働』の大切さ」。昨年度の集票点数は151,871点と大分県内で第2位を記録しているのに「決して大きな実績をあげているわけではない」という謙虚な挨拶から始まりました。集票点数のうちカートリッジが65,000点と多くの割合を占めたのが特徴です。さらに、子どもたちの声をもとに一輪車を購入、それを全校集会で校長先生から説明してもらい、学校だよりも紹介してもらったそうで、子どもたちを中心に考えた活動の意識が伝わってきました。

一週間の説明会を終えて財団に戻った私ですが、続々と届くベルマークを見るたび、そこにたくさんの苦勞や工夫、子どもたちへの想いが詰まっていることを改めて実感しています。今後も、「子どもたちのために何が出来るか」を自分に問いながら活動していきます。



全国1位の倉敷市立児島小学校を表彰

第44回 ショウワノートベルマークキャンペーン



贈呈された本を前に記念撮影。右端が片岸茂ショウワノート社長、その隣が道久理恵・元児島小PTAベルマーク推進部部长

岡山県倉敷市の市立児島小学校（樋口治校長、児童767人）で6月13日、協賛会社ショウワノート（ベルマーク番号53）によるベルマークキャンペーン全国1位表彰式がありました。同社の片岸茂社長から、PTAベルマーク推進部部长の片山良美さんに表彰状が、また児童代表の6年生、井上大虎（いのうえ・たいが）くんには記念品が贈られました。

今年が44回目というこのキャンペーンは、「ジャポニカ学習帳」など同社のノートについているベルマークを、1年間でどれだけ集められるかを競います。児島小学校は2017年、1万4418点の

ベルマークを収集。今回は他に1万台に乗せた学校はなく、児島小は2位に5000点以上の差をつけての全国1位となりました。

片岸社長はあいさつで、ジャポニカ学習帳の表紙を飾る花の写真は、そのために写真家が世界各地を巡って撮影していることを説明。「世界にはこんなものもあるんだ、とみんなに発見してもらうために作っています。来年もぜひ1位をめざしましょう」と話すと、児童たちは大きな声で「はい!」とこたえました。

記念品は、新作絵本セットや日本の歴史全23巻などの書籍です。もう一人

の児童代表、6年生の河田旭乃佳（かわた・このか）さんは、「たくさんの本をありがとうございました。みんなで読んでいきます。ベルマークを集めることで、クラスや学校がまとまりました」とお礼を述べていました。

ぶっちぎりの1位には秘密がありました。昨年度までPTAベルマーク推進部の部長を5年間務めた道久理恵さんによると、昨年度は強化活動としてショウワノートのキャンペーンをとりあげ、各教室にマークを貼る表を掲示し、多く集めた優秀クラスの表彰も始めました。これが児童の関心を大いに集め、「家庭



(写真上)片岸茂ショウワノート社長から片山良美 児島小PTAベルマーク推進部部长に表彰状が手渡された
(写真下)児童代表でありさつする6年生の河田旭乃佳さん

で眠っていた古いノートのマークまで掘り起こす効果となった」そうです。

式後の懇談では、180度水平に開くショウワノートの新製品が話題になりました。数年前にツイッターで「おじいちゃんのノート」として評判になった東京・北区の中村印刷所とコラボした製品。この技術が色々な商品にも応用されたら……と夢は広がり、話が弾みました。

ショウワノートでは現在、第45回キャンペーンを実施中です。今年12月までにベルマーク財団で検収を終えた点数を競います。結果はベルマーク新聞及び財団HPで発表します。

ナックがマーク23万点余を寄贈

毎年、社内でベルマークを集め、財団に寄贈してくれている株式会社ナック（本社・東京都新宿区）が、今年も23万点余りのマークを届けてくれました。

同社ビジネスサポート本部部長・特命担当の小岸良昭さんと、同経理部財務室IR・広報室の村中崇さんが6月14日、段ボール二箱に満々と入ったベルマークを財団に手渡しました。災害被災校やへき地校の支援などに役立てられます。

ナックは「暮らしのお役立ち企業」を掲げ、宅配水「クリクラ」や、掃除用具などダスキンのレンタル商品、住

宅などを手がけています。従業員は約2100人。ベルマークの寄贈は前社長（現会長）の提案で2009年に始まり、今回で10年連続。社内にCSR委員会を設置し、ベルマークのほかにも古本の収集や地域の清掃活動など、様々な活動に社員総出で取り組み、「暮らし」とともに「社会」にも役に立つ企業を目指しているそうです。

社内の各部門で一年間、競うように集めたベルマークは、2017年度は計23万6599点にものぼりました。それでも小岸さんは「前年度は24万点だったので、少し減ってしまって……」と謙虚に話していました。



ナックの小岸良昭さん(左)と村中崇さん

マーク寄贈、老人ホーム入居者も協力

あいおいニッセイ同和損保浜松支店が浜松市の福祉施設に

協賛会社のあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（ベルマーク番号92）が浜松支店で昨年度回収した2万1052点のベルマークを、浜松市の社会福祉法人小羊学園が運営する障害児・者施設の三方原スクエアに寄贈しました。

同社浜松支店は昨年暮れに浜松市と包括連携協定を結び、その一環として2018年1月から市の図書館でベルマーク収集を始めました。集まったマークは、社会

福祉法人聖隷福祉事業団の協力を得て、老人ホーム「浜名湖エデンの園」で3月にボランティア参加の入居者と支援スタッフが仕分け作業をしました。

6月15日に開かれた贈呈式では、浜松支店の戸高洋司支店長、聖隷福祉事業団の井上英樹執行委員財務部長らが出席。三方原スクエアの出水巖生施設長に目録を手渡しました。同社は今後も地域社会の一員として社会貢献活動をしていきたいとしています。



老人ホームでの仕分け会には入居者もボランティア参加した

本の帯創作コンにベルマーク賞創設

大阪府内の書店がマーク収集に協力

児童書を紹介する「帯」を小学生が自由な発想でデザインする「大阪子ども『本の帯創作コンクール』」(大阪読書推進会、朝日新聞大阪本社主催)に、今年からベルマーク賞が創設されました。これを機に大阪府内の約250の書店がベルマーク収集に協力することになりました。

本に巻かれた帯は、本の内容を読者にわかりやすくアピールするためのものです。コンクールでは、本を読んで感じたことを「帯」という作品に表現してもらいます。文章だけでなく絵やデザインも駆使できるため、読書感想文が苦手な子どもでも楽しく取り組みます。

課題図書と自由図書の2部門があります。課題図書の優秀作の一部は製品化され、本に装丁されて、主に大阪府内の書店で売られます。子どもの創造力を伸ばし、商品化を通じて社会性も育むユニークなコンクールです。

2005年に始まり、全国から作品を募集。昨年は12都府県の297校とパリの日本人学校1校から、計1万2841点の応募があり、優秀作9点が実際に本の帯となって流通しました。

ベルマーク賞の創設は、より多くの学校や子どもたち

にコンクールへ参加してもらおうと、大阪読書推進会とベルマーク財団などが協議して決めました。

今年も作品を募集中です。課題図書は低・中・高学年で各6冊。自由図書はコミック、辞典、事典、図鑑類を除きます。締め切りは9月3日(当日消印有効)。審査結果は11月に朝日新聞紙上で発表。同月10日に大阪府立中央図書館(東大阪市)で表彰式と作品展示会があります。詳しい応募要項は、大阪読書推進会の構成団体である府書店商業組合の公式サイトに掲載されています。

ベルマーク収集に協力する書店は府書店商業組合の加盟店。店頭でベルマーク回収箱を置き、来店者にマークを入れてもらいます。寄せられたマークは出版取次の4社を通じて随時とりまとめ、ベルマーク教育助成財団へ寄贈されます。「親子で書店へ足を運んでもらうきっかけにもなれば」と同組合の石尾義彦事務局長。加盟店のリストは組合公式サイトでご覧になれます。



本に装丁されて書店に並んだ昨年の優秀作

みなさんの想いがつまった素敵な作品をお待ちしています!



次代のベルマークは私たちが!

18歳三つ子と15歳妹の「4姉妹」が鹿児島ベルマーク運動推進の会代表に

震災で被災した学校や子どもたちの支援のため、熱心にベルマーク活動をしている「鹿児島ベルマーク運動推進の会」の代表が交代しました。ベルマーク大使を務める平嶺光子さんが、東日本大震災をきっかけに7年前に立ち上げた会ですが、次の代表は、18歳の三つ子と15歳の妹、という4姉妹。若い力にベルマーク運動の未来が託されました。

三つ子は、板坂菜々乃(いたさか・ななの)さん、麻菜華(まなか)さん、菜梨菜(まりな)さん。妹のありささんと4人で、6月9日から共同代表を務めています。平嶺さんも会の事務局に残り、今後の活動をサポートしていきます。

6月19日に鹿児島市で開かれたベルマーク運動説明会に平嶺さんと菜梨菜さんが出席し、会場で代表交代のあいさつをしました。菜梨菜さんがベルマーク運動に関わったのは、震災の翌年に被災地を訪問したことがき

かけだそう。何か被災地のためにできることはないか、と考えていたときに学校で配られた「ボランティア便り」で、この会のことを知りました。それ以来ずっと運動に関わり続けています。

説明会後にインタビューを受けた菜梨菜さんは、「代表に、と言われたときはびっくりしました。でも4人でいろいろアイデアを出しあって決めていきたい。まだ活動のことを知らない人は多いので、インスタグラムなどのSNSを使って若い人に広めていければ。会で集めるベルマークは、今は年間約4万点ですが、鹿児島市の人口と同じ60万を目指していきたい」と抱負を語ってくれました。

平嶺さんは「10代の視点で取り組めば、色々変わってくるはず。私は見守る側に。頑張る若い人を支える大人がいっぱいいる鹿児島であってほしい」とエールを送っていました。



鹿児島ベルマーク運動推進の会の新代表になった4姉妹。左から板坂ありささん、菜々乃さん、菜梨菜さん、麻菜華さん

ラッキーベルの介護シューズにベルマークを追加

協賛会社のラッキーベル(ベルマーク番号03)から発売中の介護シューズ「ユニートン」に新しくベルマークが付きしました。

「外出する際におしゃれで楽な靴を履きたい」という声に応じて作られたスニーカータイプで、歩きやすさを追求した作りになっています。片足約220gと軽く、クッション性の高いインソールで、長時間歩いても疲れにくいそうです。

見た目が普通のスニーカーのような「面ファスナータイプ(01)」と、脱ぎ履きしやすい「サイドファスナータイプ(02)」の2種類で、ネイビー・グレー・ブラックの3色。標準小売価格5,600円(税別)。ベルマーク56点が付きます。

同社ホームページからも購入できます。



リユースパーツのパンフいかが／自動車リサイクルのNGP

協賛会社のNGP日本自動車リサイクル事業協同組合(ベルマーク番号76)は、自動車のリユースパーツについての啓蒙パンフレットを、希望するベルマーク運動参加校にお送りすることにしました。

同組合は、5月にスタートした全国各地のベルマーク運動説明会のうち、24会場に参加していますが、事務局によると、一部の会場でアンケートをお願いしたところ、「環境にも優しくかつ安価で自動車修理が出来るなら是非リユースパーツを利用したい」「利用機会があれば是非使いたい」等の意見をいただいたそうです。

希望する学校はNGP協組の本部事務局(03-5475-1208、FAX03-5475-1209、ngphonbu@ngp.gr.jp)に連絡して下さい。



◎東芝ライフスタイルが電話番号変更

協賛会社の東芝ライフスタイル(ベルマーク番号43)の問い合わせ電話番号が7月1日から044-577-0142に変わりました。いまのベルマーク手帳に載っている旧番号の044-331-7299にかけると、番号が変わった旨のアナウンスが流れます。ご注意ください。

◎ベルマーク財団理事に尾木ママ

ベルマーク財団の新理事に、教育評論家で法政大学特任教授の尾木直樹さんが就任しました。尾木さんは、2003年から理事を務めていた川淵三郎・日本サッカー協会最高顧問が退任したのに伴い、その後任として選ばれました。財団の理事は9人で、今回は尾木さんを含めて3人が新理事に就任しました。詳細は財団HPでご確認ください。

◎財団見学

7月4日、クラブツーリズム埼玉旅行センターの「エコスタッフ」19人。同社の財団見学は2月の千葉旅行センターのスタッフに続き今年2回目。